生産効率アップに向けた学びの場

～『福井ものづくり改善インストラクタースクール』を振り返る～

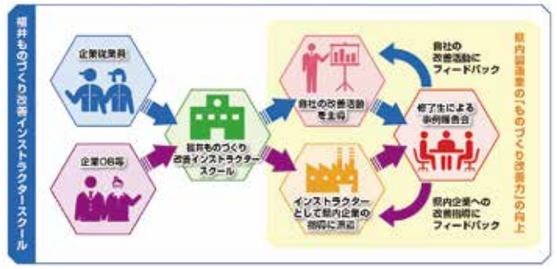
日本の「ものづくり」の生産性を一層高めていこうと、現在全国14の地域で行われている「ものづくり改善インストラクタースクール」。福井でも昨年９月に開校し、年末には第一期生のカリキュラムが無事に終了しました。製造業の多い本県では、生産性向上は取り組むべき重要な課題です。そこで、スクールの窪田正明統括責任者をはじめ、受講生や現場実習の受け入れ企業の方々にインタビューし、初年度の活動とそこで得られたものを振り返っていただきました。ぜひ次年度の受講も検討しつつ、お読みいただければ幸いです。

窪田 正明 氏
福井ものづくり改善インストラクタースクール
統括責任者

福井村田製作所生産技術部門で工程設計業務に従事。村田製作所グループの海外拠点の製造部長、海外事業所の総経理、村田製作所の資材部長を歴任。2015年７月から福井ものづくり改善インストラクタースクールの立上げ業務に従事、東京大学ものづくりインストラクター養成スクール第11期を終了。

【福井ものづくり改善インストラクタースクールとは】

東京大学ものづくり経営研究センターと共同開発した、**講義・演習・現場実習**からなる中小企業の**現場のための**カリキュラム。東京大学藤本隆宏教授によるものづくり理論をベースにしたオリジナルテキストを用い、生産効率を高める**「よい設計」と「よい流れ」**を作る現場改善の知識や手法を県内中小企業の中核を担う現場の従業員や、多くの現場経験を有する企業OBの方に学んでいただきます。東京大学ものづくり経営研究センターの協力による**経験豊富な講師陣**が担当するほか、終了後も技術向上を図り、現場の改善に活かせるよう、継続的な**フォローアップ体制**も用意されており、体系的に現場改善をリードする力を身につけることができるプログラムです。



福井県製造業の実情とスクールの目的

―当スクールを福井で行う狙いはどこにありますか？

福井県内の製造業生産高の46％は従業員数30人～299人の中小企業が占めています。私自身、これまで40年以上製造業を経験してきましたが、福井県の中小企業の多くは、世の中のニーズに合わせて良い製品を企画・製造しており、業績は他県と比較しても悪くありません。

しかし、全体的に見て「工程設計力や生産技術力」が弱いように思います。ＩＥ（インダストリアル・エンジニアリング）的な手法でものづくりを考えることや、ＳＱＣＤ※の管理技術が課題と感じていました。具体的には、一つの工程の中での要素作業が多すぎることがあります。結果として経験豊富なベテラン作業員のスキルに頼り切っていることが多く、新人がその代役をこなせない。その結果、品質や納期も不安定となり、日々の残業でやっとの思いで注文に対応しているようです。有効求人倍率も高く、ただでさえ人手を確保するのが難しい中で、若い人が仕事を覚える前に辞めてしまうという悪循環に陥っているのが県内の製造業の厳しい現状です。

※製造業で重要な要素を挙げた標語の一つ。〝Safety〟（安全性）、〝Quality〟（品質）、〝Cost〟（生産性）、〝Delivery〟（納期）の頭文字を繋いだもの

福井の製造現場には、もっと標準作業をベースとした簡潔明瞭な作業設計が必要と思い続けていた中、このスクールと藤本先生の理論に出会いました。藤本理論で言うところの〝よい流れ〟を作れる人を育てなければならない、組織的に、継続的にＳＱＣＤの管理技術を上げて全体的な現場改善を主体的にできる人を育てなければならない、と感じました。

当スクールならではのポイント

―他の現場改善の講座との一番の違いはどこにありますか？

これだけ短期のカリキュラムの中で、座学・演習・現場改善実習を、集中して一気にやり遂げるというところは他にないと思います。特に現場実習を通して身に付くことは多いのではないでしょうか。業種も年齢も異なる人と即席のチームを組み、初めて入る現場を見て回り、改善案を考え資料にまとめて、相手方の社長や経営者の前で発表するのです。「これだけの期間でこれだけのことができる」ということを肌で感じてもらえるはずですし、充実感にもつながるのではないでしょうか。

中小企業においてはそもそも転職などをしない限り、入社して定年までずっと同じ現場しか見ないことがほとんどだと思います。しかも、仕事の中ではいつも決まった人としかコミュニケーションを取らないような状況が現実でしょう。スクールでは利害関係なく異業種の人たちと交流できること、その人たちと日を決めて協力しながら課題をやり切ることがミソだと思っています。

チームに分かれての演習の様子。

今後の展望

―1年目を終えていかがですか？

藤本理論の「よい設計・よい流れ」、特にスクールでは「よい流れ」を着眼点にカリキュラムを進めてきました。講義・演習・現場実習を修了したインストラクターは、多くを身に付けたのではと感じています。企業ＯＢの受講者は人を育てるお手伝いを、現役の方には自社の現場改善を引っ張っていってほしいですが、どちらも到底一人で出来ることではありません。一人で現場に戻ったとしても、上司はうまく理解してくれないし、部下は急にはついて来ません。１つの会社の改善に複数で取り組むことが望ましいと私は思っています。

現場実習ではビデオカメラで撮影する場面も。

そのためにも、スクールを新たな企業に受講してもらいたいのはもちろん、昨年受講された企業にも続けて受講していただきたいですね。現場改善には「心・技・体」が必要ともいわれます。頭で理解するだけでなく、体に覚え込ませなければならない。最終的に職場に広げようと思うと「心」がキッチリとしていなければなりません。

受講された企業や実習受け入れ企業は、独自でフォローアップ勉強会を開催するなど、実際の現場改善に向けての動きを見せているようです。来年度の計画も、現在固めていっている段階です。ぜひ県内の製造業の皆さんに受講いただきたいと思います。

2016年度 スクールカリキュラム

実施日		カリキュラム	
9月 8日	木	開講式	
		ものづくりの基礎概念	「ものづくりとは設計情報の創造・転写である」との概念を正しく理解する。
		競争力と企業パフォーマンス	組織能力の向上が「質の競争力」（Q.C.D.F）を高めることを理解する。
9月15日	木	コストと生産性	製品のコストを管理する原価管理と生産性向上の進め方を理解する。
		納期・工程・在庫管理	変種変量・短納期受注への対応方法として、生産計画・工程管理の大切さを理解する。
		品質管理	工程内で品質保証するための考え方について理解する。
9月29日	木	ＩＥ	現場の作業改善の基本であるＩＥ手法を学び、その活用方法を理解する。
10月 6日	木	標準作業と標準時間	工場管理の基礎である標準作業と標準時間について、その必要性とそれぞれの設定方法を理解する。
10月13日	木	ＶＳＭ（現状と望ちべき姿）	モノと情報の流れをＶＳＭ図に描き、見えにくいものを見えるようにする手法を理解する。
		ＶＳＭ演習	自分でＶＳＭが作成できるように演習する。
		現場改善事例紹介	他社の現場改善事例から現場改善の進め方を理解する。
10月20日	木	ＱＣ７つ道具と新ＱＣ７つ道具	品質改善活動に利用できるツールとしての７つ道具を理解する。
		問題発見の着眼点	「作業者の眼」と「管理監督者の眼」をもって現場を観察することで問題点が見えてくることを理解する。
10月27日	木	コミュニケーションの進め方	お互いの信頼関係の上に、相手の立場を理解し、自分の考えを伝達するポイントを理解する。
		コーチングの進め方	会話を通じて相手が行動をおこす意欲が湧いてくるプロセスを、３つの心構えなどを通じて学習する。
		インストラクティングの基礎	現場で頑張っている従業員と協力し、どのように効果を上げるかという視点に立った活動の進め方を理解する。
11月 2日	水	５Ｓの自己取り組み報告・討議	企業体質の改善に有効であるＳＳについて活動の進め方を理解する。
		現場改善の進め方・定石の作り方	ものづくり現場に立ったときの基本パターン（先様から改善への質問）を理解する。
11月 9日	水	実習現場見学（３社）	これまで学んだ内容をもとに現場改善のイメージづくりをする。
		テーマ・目標設定	実習先からの依頼内容を踏まえて、よい流れにするためのテーマ・目標を設定する。
11月16日	水	現場改善実習（１）	
11月17日	水	チームディスカッション	
11月30日	水	現場改善実習（２）	
12月 1日	水	チームディスカッション	
12月 7日	水	現場改善実習（３）	
12月 8日	水	チームディスカッション	
12月14日	水	実習先での成果発表と個人定石作り	
12月15日	水	全員成果発表と個人定石発表	
		修了式	

現在次年度の準備を進めています。
詳細が分かり次第HP等でお知らせいたします。

参考情報（2016年度より）
募集人数：12名程度
受 講 料：企業従業員 30万円、企業OB 5万円

【お問い合わせ】
（公財）ふくい産業支援センター
人材育成部（中小企業産業大学校）
〒918-8135 福井市下六条町16-15
電話：0776-41-3775　FAX：0776-41-3729
E-mail：monodukuri@fisc.jp

CONTENTS

01 特集 生産効率アップに向けた学びの場 ～「ものづくり改善インストラクタースクール」を振り返る～
・イントロダクション 統括責任者 窪田正明氏による振り返り
・企業事例 ㈱TOP／サカセ化学工業㈱ ㈱日本エー・エム・シー／清川メッキ工業㈱ 山金工業㈱
・藤本隆宏氏 著書紹介
・現場改善３つの視点
・県外現場改善事例 ㈱ケアコム
11 完成への道のり 長谷川造園㈱
13 「第３の目」の使い方～コンサルティング活用のススメ～
15 脱ITオンチ経営
16 福井のスゴ技！探訪 ㈲辻田漆店
17 飛躍する経営者たち 河村 将博 氏 ㈱カワムラモーターズ
18 グッドデザインシンキング
19 今月の社是
20 インフォメーション 他